

東北タイ研修報告 2023

2023 年 9 月 4 日～8 日まで、タイ王国のシーマハサラカム看護大学に学生 8 名（看護学専攻 3 年生 5 名、検査技術学専攻 3 年生 2 名、放射線技術科学 3 年生 1 名）が短期留学をしました。

Opening Ceremonyでは、タイの伝統的な踊りで、温かく迎えていただきました。緊張しながら一人ずつ自己紹介をし、バディと出会い、交流を深めていきました。



Thai Traditional Medicine Clinic を訪問しました。ここでは、実際にタイ古式マッサージを教えていただき、指導を受けながら学生同士で演習しました。また、タイのフットマッサージも体験しました。病院における医療と伝統医療との連携や融合の実際を学びました。

Maharakham Hospital の ICU や救急医療の現場を見学しました。Maharakham 市の救急医療の実際や Maharakham Hospital の概要などの講義を受け、また、互いの国のコロナ禍での医療の混乱、対応などについても共有しました。





Ban Wang Pathum Tambon Health Promotion Hospital では、タイの地域保健の体制や重要性について学びました。医療者が少ないルーラル地域では、ヘルスボランティアの方々が地域住民を家族単位・地区単位で把握しており、その情報が Health Promotion Hospital に集約され、必要な医療や予防などが住民に届くようになっていました。地域住民の健康を地域全体で守る体制が構築されていることを学ぶことができました。



City tour では、Phuthawanaram Temple というとても大きい寺院を訪問しました。タイのお祈りの仕方を教えてもらったり、象に触れる体験をしました。Nongkhuanchang village では、タイの織物をおみやげに買いました。タイの伝統文化の一つであるテキスタイル（織物）は、地方によって柄や染め方が異なるそうです。



Farewell party を盛大に行ってくださいました。おいしいタイ料理を囲み、文化交流をしました。タイのダンスや日本や岡山大学の紹介、みんなで話し合い準備した動画や出し物で盛り上がり、とにかくにぎやかで楽しい時間をすごすことができました。バディとのお別れはさみしかったです。引き続き連絡を取り合い、交流を深める約束をしました。



タイ研修を終えて

タイの医療について学ぶなかでとくに感じたことは、人と人との繋がり合うことの大切さです。地域単位で人々が密接になり、病院という枠にとらわれない公衆衛生の仕組みは、医療の原点ではないかと感じました。

タイの良いところを知っただけではなく、改めて日本の良さも実感しました。タイでは、日本料理のお店が多くあったり、日本の音楽が流行していたり、日本から送られた医療機器を使用したりしており、日本の文化や技術が浸透していて、少し誇らしい気持ちになりました。

タイへ赴き、体感としてその土地の医療や文化を知ることができました。同年代のバディや、現地大学の先生方によるサポートや交流により、タイの内側から文化に触れる機会を得られたことが大きな成果です。言語を身につけもう一度タイへ行き、人々と交流したいという思いを非常に強く持っています。今後の言語学習に対する意欲や、海外に対するさらなる興味をもたらす素晴らしい経験となりました。

一番思い出に残っているのは、バディとの関りです。最初は、英語が得意ではなかったため自分の英語力でコミュニケーションが取れるのか、歓迎してもらえるのか、など不安が多かったのですが、すぐに仲良くなることが出来ました。バディには、東北タイの滞在中、タイの料理や文化、タイ語も教えてもらいました。日本で流行しているものがタイでも流行していたり、全然違う風習があったりして、見るもの聞くことすべてにワクワクしました。